

## 「G空間<sup>タイムズ</sup>×ICT北陸まちづくりトライアルコンクール」募集要項

平成26年8月12日

G空間×ICT街づくり推進部会事務局

### 1 趣旨

学生の皆様に、北陸3県（富山県、石川県、福井県）において、自分達の暮らしや産業や社会がどのように便利で、革新的なものになるかのユニークなアイデアを募集する企画です。

我が国は、経済の再生、防災の強化、地域の活性化などの多くの課題に直面しており、それらの課題を解決し、新たな付加価値を創造するために、G空間情報（地理空間情報）とICT（情報通信技術）の活用が期待されています。

このコンクールでは、学生ならではの斬新な視点や柔軟な発想の提案に期待し、G空間情報やICTを活用した地域社会の夢や希望を語っていただくことを目的としています。

### 2 募集

#### (1) 募集対象者

①北陸3県の大学（短期大学、大学院、専門学校を含む）に在籍する学生又はそれらを含むグループ

②北陸3県以外の大学（短期大学、大学院、専門学校を含む）に在籍する学生であって、北陸3県の出身者又はそれらを含むグループ

※グループの場合は、上記①又は②の学生が一人以上参加すること。

※ゼミや研究室でのアイデアをベースとしたものであれば、指導教官等の学校教育関係者の協力の承認を得るようにして下さい。

#### (2) 募集部門とテーマ

○部門Ⅰ：「元気な経済／便利な暮らし賞」部門

テーマ：北陸地域の経済を元気にしたり、便利な暮らしを実現するアイデア

○部門Ⅱ：「安心・安全な社会賞」部門

テーマ：北陸地域の企業、行政、市民等が助け合いながら安心安全な社会を実現するアイデア

○部門Ⅲ：「活力ある地域賞」部門

テーマ：北陸地域の人、経済、資源等が有機的に結びつき、高齢者等にやさしい社会の実現又は地場産業の活性に貢献するアイデア

※各部門のイメージについて付録を参照のこと。

#### (3) 募集期間（エントリーシートを受付期間）

平成26年8月12日（火）から10月10日（金） 必着

#### (4) 応募方法

○エントリーシート（様式1）及びイメージ図（様式2）に必要事項を記入し、下記の事務局まで、電子メールまたは郵送で提出して下さい。イメージ図の添付がない場合は無効となりますのでご注意ください。ただし、電子メールで添付するイメージ図は、Microsoft PowerPoint で読み取りが可能であるか若しくはPDF形式であること。

○電子メール件名

「【コンクール提案】提案名\_〇〇〇〇」とすること。

○受領確認

応募を受領後、3日以内（土日祝を除く）に受領確認メールをエントリーシートの代表者連絡先に発信しますので、こちらを確認できない場合は事務局まで連絡すること。

※郵送の場合は、封筒にコンクール提案書類在中と記載すること。また、受領確認は代表者の連絡先に3日以内（土日祝を除く）にお電話しますが、確認できない場合は事務局まで連絡すること。

○エントリーシート（様式1）及びイメージ図（様式2）は以下からダウンロードできます。

<http://www.hokurikutelecom.jp/gkuukan2014contest.html>

○応募書類は返却致しませんので、あらかじめご了承ください。

### 3 入賞

◆G空間×ICT グランプリ（1件）

賞状及び日本科学未来館の入場料相当と新幹線往復（金沢－東京）チケット相当のペア旅行券、協賛企業の副賞（ネットワークカメラ、イメージスキャナー）

◆北陸総合通信局長賞（1件） 賞状及び図書券（1万円分）

◆部門入賞（4件） 賞状及び図書券（5千円分）

### 4 審査&表彰

#### (1) 一次審査

○エントリーシート及びイメージ図の書類審査を行い、公開プレゼンテーションに参加いただく提案を選考（1次審査）します。

○公開プレゼンテーションへの参加は、各部門で2提案程度（3部門合計で6提案を上限）とします。

○審査結果については、応募者全て（グループの場合は代表者）に通知します。

○一次審査を通過した提案は入賞提案（部門賞）として、提案者の氏名、学校、学年（グループの場合はグループ名と代表者及び参加者全員の氏名、学校名、学年）、提案名及び提案概要を公表いたします。（総務省北陸総合通信局と北陸情報通信協議会G空間×ICT街づくり推進部会の連名による報道発表）

#### (2) 提案内容のブラッシュアップ期間

○一次審査を通過した提案は、公開プレゼンテーション用に提案内容のブラッシュアップを行っていただきます。

○具体的には、公開プレゼンテーションに向けて、別途ご連絡する説明会への参加とプレゼン資料の作成です。

(説明会では、主催者からプレゼン資料の作成方法やノウハウなどを提供し、エントリーシートからプレゼン資料への支援を行います。)

○説明会の参加は必須とし、総務省の規定に準じた交通費を支給します。ただし、1提案あたり最大1万円を上限とします。

### (3) 公開プレゼンテーション（最終審査）と表彰

○一次審査を通過した提案は、平成26年12月6日（土）に開催予定の公開プレゼンテーションにて発表をしていただき、G空間×ICT街づくり推進部会の部会長等の審査員が審査します。

○プレゼンテーションの会場までの交通費は、総務省の規定に準じた金額を支給します。ただし、1提案あたり最大1万円を上限とします。

○審査の結果、G空間×ICTグランプリ（1件）と北陸総合通信局長賞（1件）を決定するとともに、一次審査で選考した入賞提案（部門賞）を含めて表彰します。

○なお、副賞として、G空間×ICTグランプリには日本科学未来館の入場料相当と金沢から東京までの新幹線往復チケット相当のペア旅行券、北陸総合通信局長賞には図書券（1万円分）それ以外の各部門賞には図書券（5千円分）を贈呈。

○協賛をいただいた(株)アイ・オー・データ機器と(株)PFUから、G空間×ICTグランプリには以下の製品を贈呈。

・マイク・スピーカー付き無線LAN対応ネットワークカメラ「TS-WLC2」((株)アイ・オー・データ機器)

・カラー イメージ スキャナ ScanSnap iX100 ((株)PFU)

### (4) 審査員

総務省北陸総合通信局長、北陸情報通信協議会G空間×ICT街づくり推進部会の部会長及び副部会長、同部会トライアルコンクールWG主査

### (5) 審査基準

#### ○地域性

北陸3県内の具体的な地域・産業・文化などのアイデアであるか。

#### ○新規性・独創性

今までにない斬新なアイデアであるか。従来のサービスの価値を破壊するような独創性があるか。なお、新規性・独創性には、北陸で実施されていないようなアイデアや大学等のゼミ等で研究中のテーマをアレンジしたものを含む。

#### ○整合性

各部門のテーマに合致するものであるか。

#### ○適合性

G空間情報若しくはICTを活用したものであるか。

#### ○実現性

普及や実現するための具体的な内容となっているか。

## 5 スケジュール

- (1) エントリーシート（様式1）及びイメージ図（様式2）提出 10月10日（金）必着
- (2) 一次審査期間 10月14日（火）～10月27日（月）
- (3) 入賞提案ブラッシュアップ期間 10月28日（火）～11月25日（火）
- (4) 最終審査用資料提出 11月27日（木）
- (5) 最終審査（公開プレゼンテーション）12月6日（土）

## 6 入賞提案のPR

- 北陸情報通信協議会会報誌やHPへの掲載
- 北陸総合通信局のプレス発表やHPへの掲載
- 北陸総合通信局が制作・配信する政策広報番組のICTチャンネルで放映
- 優秀な提案の応募者と自治体・企業との間のマッチングの場を提供

## 7 注意事項

- 応募資格等への違反または虚偽の事実があった場合には失格といたします。
- 応募提案（最終審査のプレゼン資料を含む）の著作権等の知的財産権は当該提案の応募者に帰属しますが、応募者は主催者が本コンクール及びこれに関連する取組に関するものに限り、今後、当該応募提案を国内外で使用する権利を許諾するものとします。
- 著作権、肖像権、プライバシー等第三者の権利を侵害しないように、必要な許諾を得た上で、応募して下さい。応募した提案に含まれる内容及びその利用に関して、問題、トラブルが生じた場合は、その責任は全て応募者が負うものとし、主催者は一切の責任を負わないものとします。未成年者の場合は親の承諾を得ること。
- 一次審査を含め、選考経過等に関するお問い合わせには応じられません。
- 応募により入手した個人情報については、本コンクール以外の目的には使用しません。ただし、一次審査を通過した入賞提案（部門賞）並びにG空間×ICTグランプリ及び北陸総合通信局長賞については、提案者の氏名、学校、学年（グループの場合はグループ名と代表者及び参加者全員の氏名、学校名、学年）、提案名及び提案概要を報道機関等に公表いたしますので、予めご了承下さい。
- 最終審査（公開プレゼンテーション）の様様（映像・写真）を北陸総合通信局や北陸情報通信協議会等に掲載いたしますので、予めご了承下さい。

<ご応募・お問合せ先>

【北陸情報通信協議会G空間×ICT街づくり推進部会事務局】

北陸総合通信局情報通信部情報通信振興室

〒920-8795 金沢市広坂2-2-60 金沢広坂合同庁舎

電話：076-233-4431 FAX：076-233-4499

電子メール：hokuriku-shinkou@soumu.go.jp

## G空間×ICT北陸まちづくりライアルコンクール エントリーシート

提案締め切り 2014 年 10 月 10 日

応募日	平成 年 月 日	受理番号		
提案者名	グループ名	<i>(例：〇〇大学〇〇ゼミ、〇〇大学まちづくり研究会など)</i>		
	提案代表者	学校名	学年	性別
	参加者	学校名	学年	性別
代表者の ご住所	〒 ー			
代表者の 連絡先	TEL		TEL (携帯)	
	E-mail :			
指導教官等学校関係者の所属・氏名				
指導教官等学校関係者の連絡先	TEL		TEL (携帯)	
	E-mail :			
本コンテストをどのようにして知りました？	<input type="checkbox"/> ご紹介 (お名前： )	<input type="checkbox"/> サイトどの機関のサイトですか？ (サイト名： )	<input type="checkbox"/> チラシ (どこで見ましたか) (入手先： )	
<b>1. 提案名</b> (サブタイトルもあれば記載のこと。)				
<b>2. 提案部門</b> (該当する部門に <input checked="" type="checkbox"/> を入れて下さい。)				
<input type="checkbox"/> 部門Ⅰ：「元気な経済／便利な暮らし賞」				
<input type="checkbox"/> 部門Ⅱ：「安心安全な社会賞」				
<input type="checkbox"/> 部門Ⅲ：「活力ある地域賞」				
<b>3. 提案内容は？</b>				
<i>どのような位置の情報 (G空間情報) や情報通信技術を活用することにより、自分達の暮らし・産業・文化・行事などがどのように便利で、革新的なものになるかを具体的に記載のこと。</i>				
<b>4. 動機・社会的ニーズは？</b>				
【動機】				
<i>提案の動機や理由を記載のこと。</i>				

**【社会的ニーズ】**

どのような背景や問題・課題があるのか又はどのようなニーズがあるのかを記載のこと。

**5. 対象ユーザは誰か？**

地域経済、地域社会、地域の行政、地域住民、地場産業や資源、地域の文化・風習、お祭りなど、北陸における提案の対象を具体的に記載のこと。

**6. 普及方法は？**

普及や実現するためにキーとなる主体・組織又は方策を記載のこと。

**7. アピールポイントは？**

提案にかける思いや特にアピールしたい点があれば記載のこと。

**8. 類似する事例は？**

提案をするに際して参考にした事例があれば記載のこと。

**9. その他添付書類**（エントリーシートを提出の際、様式2の添付を確認しを入れて下さい。）

提案内容のイメージ図の作成

様式2の添付のチェック

※提案者名欄の「グループ名」区分には、グループで提案される場合であって、グループ名があれば記載のこと。

※指導教官等学校関係者の所属・氏名欄は、応募に際して協力を得ている際は記載のこと。

※個人で応募の場合は、提案者名欄の「提案代表者」区分のみ記載。「参加者」区分は記載不要です。

※複数部門に関連する場合は、主となる部門を選択のこと。

※本文明朝10.5ポイント、A4サイズ2枚に納めること。

※各欄の記載のための朱書き斜文字は削除して下さい。



G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクールの各部門のイメージ

○募集部門Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、総務省が平成25年6月28日に公表した「G空間×ICT推進会議」報告書に記載の「共創型元気経済社会」、「共助型安心安全社会」、「共生型地域活力社会」を各部門としています。

<p>コンクール募集部門</p>	<p>「G空間×ICT推進会議」報告書 抜粋 ( ) は報告書の頁</p>
<p>部門Ⅰ：「元気な経済／便利な暮らし賞」部門</p>	<p>「共創型元気経済社会」(G空間×ICTで、「元気な経済、便利な暮らし」を実現) (イメージ) (P19)</p> <p>○図表2-2 「共創型元気経済社会」(G空間×ICTで、「元気な経済、便利な暮らし」を実現(イメージ))</p> <p>○「1分の1」の投影型高精細デパート3D地図により、自宅にいながら、バーチャル・ショッピング。 ○あらゆるモノが位置情報を測位・発信し、屋内でも屋外でも、どこに何があるか常時把握。オンラインショッピングで購入した商品の配送時、交通状況をもリアルタイムで計算し、注文した商品の到着時間を詳細に予測。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;"> <p><b>小売・流通(O2O)</b></p> <p>CRMの高度化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>店舗情報の随時提供</li> <li>デジタルクーポン</li> <li>チェックインポイント</li> <li>顧客情報を活用したプロモーション</li> </ul> <p>GISマーケティング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商圏、市場分析の可視化</li> <li>売上予測、販促促進支援</li> <li>店舗配置計画、広告計画</li> </ul> <p>顧客の位置・行動情報の共有による連携</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p><b>物流業、運輸業</b></p> <p>自動倉庫ソリューション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>荷物の入出荷状況に応じた在庫位置の最適化</li> <li>仕分け、パレタイズの自動化</li> <li>在庫管理、分析</li> </ul> <p>輸送の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プローブ情報活用による巡回や配送経路の最適化</li> <li>無人走行の実用化</li> </ul> <p>輸送状況の監視(トレーサビリティの普及)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タイムスタンプ付きのロギング</li> <li>産地や輸送状況の保証</li> </ul> <p>荷物位置と車両位置情報の共有による連携</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p><b>危険検知・自動制御</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運転者への警告</li> <li>介入による危険回避</li> </ul> <p>EV充電ステーションの検索</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エコルート案内</li> </ul> <p>プローブ情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒヤリハット統計(急ブレーキ多発地点等)、運転者への周知</li> <li>適切な道路改善計画への利用</li> <li>レーン別渋滞情報</li> </ul> <p>車、人などの位置情報の共有による連携</p> <p><b>交通：次世代ITS</b></p> </div> <div style="width: 50%;"> <p><b>自動施工(建設)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>無人機器による自動建設</li> <li>建機の自動走行</li> <li>建築進捗状況の管理</li> </ul> <p>ヘリテレ検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エリア監視</li> <li>UAVによる監視</li> <li>盗難追跡</li> </ul> <p>不要者、建機等の位置情報の共有による連携</p> <p><b>M2M(機械警備、産業ロボット)</b></p> </div> </div>
<p>部門Ⅱ：「安心・安全な社会賞」部門</p>	<p>「共助型安心安全社会」(G空間×ICTで、「安心安全な社会」を実現) (イメージ) (P19)</p> <p>○図表2-3 「共助型安心安全社会」(G空間×ICTで、「安心安全な社会」を実現) (イメージ))</p> <p>○社会インフラ管理や防災にG空間情報を活用することにより、フル・レジリエントな安心安全な社会が実現。 ○行政と住民がG空間情報を介してつながり、住民が役所に出向くことなく、その時、その場所に応じた行政サービスが提供。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;"> <p><b>防災</b></p> <p>防災システムの普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GD地図と様々なG空間情報を活用した津波シミュレーションシステム</li> <li>被害状況や要援護者のリアルタイム把握を通じて、生命の確実な保護、迅速な復旧・復興へ。</li> </ul> <p>基礎情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住民基本台帳</li> <li>ハザードマップ等</li> </ul> <p>被害情報</p> <p>市民、施設等の位置・被害情報の共有による連携</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p><b>社会インフラ整備</b></p> <p>G空間によるインフラ管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>M2Mソリューションやビッグデータとの連携を通じて、インフラクラシス時代につながるインフラ管理。</li> </ul> <p>各種台帳</p> <p>社会インフラの位置・状況情報の共有による連携</p> </div> <div style="width: 100%; text-align: center;"> <p><b>行政サービスの高度化</b></p> <p>行政情報の電子化・相互連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>従来の紙台帳が、完全に電子化されて、可能なものから率先してクラウド管理。</li> <li>電子化された行政情報は、共通ID(地番や住居表示等)を介して連携。</li> </ul> <p>オープンデータ時代の行政サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの住民が、それぞれの状況、場所に応じたサービスを受取る。</li> </ul> </div> <div style="width: 50%;"> <p><b>現状課題</b></p> <p>市民、資産(個人、公共)の位置情報等の共有による連携</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p><b>現状課題</b></p> </div> </div>

<p>部門Ⅲ：「活力ある地域賞」部門</p>	<p>「共生型地域活力社会」(G空間×ICTで、「活力ある地域社会」を実現)(イメージ①②) (P20)</p> <p>○図表2-4 「共生型地域活力社会」(G空間×ICTで、「活力ある地域」を実現)(イメージ①)</p> <p>○ cm単位の段差も把握した3D屋内外地図により、車いすの方や高齢者を安全に目的地まで自動誘導。 ○ 高齢者や子供たちをシームレスに見守り、安全な地域コミュニティを実現。</p> <div data-bbox="459 427 1410 1010"> </div> <p>○図表2-5 「共生型地域活力社会」(G空間×ICTで、「活力ある地域」を実現)(イメージ②)</p> <p>○ 圃場のm単位の土壌状況や作物生育状況、周辺の気候情報等がマッシュアップされた3D高精度空間地図を用いて、AI農耕機が、m単位で耕作の強度を変化させる等、超高性能農業を実現。 ○ 海底面の高精度測位を常時行い、平時は資源探査、災害時は津波の到着場所・時間を瞬時に予測。</p> <div data-bbox="432 1220 1398 1742"> </div>
------------------------	---

(総務省報道発表)

平成25年6月28日 「G空間×ICT推進会議」報告書の公表

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin01\\_02000105.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin01_02000105.html)

○更に、次ページも参考に、北陸3県において、G空間情報(地理空間情報)やICT(情報通信技術)を活用した街づくりのユニークなアイデアの応募をお待ちしています。

## G空間情報！

「G空間情報(地理空間情報)」とは、位置や場所に関連づけられている情報のこと。例えば、人・車がどこにいるか、災害や事故がどこで起こっているかという情報のこと。これまではG空間情報は大量に生成されているが、多くは十分に利用できていなかった。

例えば、地図情報、自治体が保有する地図関連情報(例:道路工事情報、公衆トイレの位置などの情報)、豪雨等の気象情報など様々な情報がある。

## ICTの動向！

G空間情報をだれもがどこでも使うには、ICT(情報通信技術)の活用が不可欠である。G空間情報の取得や伝達等に関係の深いセンサー及びスマートフォン、G空間情報の管理や分析に関係の深いクラウド・サービス及びビッグデータ技術等のICTの果たす役割が重要である。

例えば、身近なICTには、スマートフォンの他にカーナビ、ドライブレコーダー、GPSなどがある。



G空間活用でカーナビの高度化が期待できます。



北陸のまちづくりは  
君たちの手で！



スマートフォン普及で世界の情報が集まりGPS機能によりビッグデータへの応用が期待できます。



G空間活用で効率的な土地利用が期待できます。



G空間活用で防災の更なる強化が期待できます。



貴重な文化財をG空間活用による保護や観光資源に！



駅などをG空間活用による新しい交流拠点に！



豊かな自然をG空間活用による保全や資源開発に！